

スポーツ施設の現状と課題

1 市のスポーツ施設の現状と課題

(1) 市のスポーツ施設の整備状況

- ① 市内のスポーツ施設は、市民スポーツの拠点として市民体育館等の3つの市営体育館（市民体育館、玄海B&G海洋センター及び勤労者体育センター）と、ふれあいの森総合公園をはじめとした有料スポーツ公園施設、複合文化施設の宗像ユリックス、民間のスポーツ施設があり、市民のスポーツ活動の場として利用されている。
- ② 3つの市営体育館は、いずれも昭和50年代半ばに建築され、既に築30年以上が経過しており、「観客席を有していない」、「冷暖房設備等を有していない」、「共用スペースが手狭である」等、現在の住民ニーズには十分こたえることができない施設となっている。
- ③ 市の有料スポーツ公園「明天寺公園、日の里第4号公園、日の里第7号公園、日の里第11号公園、自由ヶ丘第11号公園、広陵台中央公園」には、野球場（軟式）とテニスコートが整備されている。
- ④ 市の有料スポーツ公園「ふれあいの森総合運動公園」には、サッカー、野球（軟式）、ソフトボール、グラウンド・ゴルフ等を行うことができる多目的グラウンドが整備されている。ただし、同公園の駐車場は、グラウンドよりも低い場所に整備されていることから、グラウンドとの高低差があり、高齢の利用者にとって移動の負担が大きい。
- ⑤ 市の有料スポーツ公園「宗像中央公園」には、野球場（軟式）、テニスコート、ゲートボール場が整備されている。
- ⑥ 宗像中央公園の野球場は、昭和50年代後半に整備されたが、審判本部席、十分な観客席等の付帯設備を備えていない。また、明天寺公園の野球場は、平成6年に整備されたが、十分な観客席を備えていない。どちらも軟式対応の野球場となっている。また、玄海小学校移設に伴い廃止した市運動広場・野球場の代替地が確定していない。
- ⑦ 宗像ユリックスには、イベントホール、アクアドーム、テニスコート、サーキットトレーニングコース、芝生広場、多目的広場等のスポーツ関連施設が整備されている。

(2) 市のスポーツ施設の利用状況

- ① 3つの市営体育館は、年間約18万人（市民体育館／約14万人、玄海B&G海洋センター／2万人、勤労者体育センター／2万人）が利用しており、現状では利用者が自由に施設確保をすることが難しい状況になっている。
- ② 宗像中央公園のテニスコート・野球場、ふれあいの森総合公園の多目的グラウンド、自由ヶ丘地区及び日の里地区等の有料スポーツ公園施設は、テニス、野球を中心に年間約5万人近くが利用している。宗像中央公園は、特に土・日・祝日は市民体育館の利用者と利用が重なり、駐車場

が不足する状況がある。

- ③ 宗像ユリックス・アクアドームの年間利用者数は、20万人を上回り、特にプールは飽和状態にある。
- ④ 小・中学校の学校施設（主に体育館・運動場・武道場）は、市内に在住・通勤・通学している人だけで10人以上が加入する団体に対し、学校施設の開放を行っている。年間約30万人が利用しており、施設稼働率は高い状況にある。
- ⑤ 民間スポーツ施設のグローバルアリーナでは、ラグビー、サッカー等ができる芝生化されたグラウンドや陸上競技場を備えており、当該競技種目のスポーツ団体による練習・試合、スポーツイベント等で利用されている。しかし、市営のスポーツ施設と比較すると利用料金は高い。
- ⑥ グローバルアリーナには、体育館、武道場も整備されているが、スポーツ大会やイベント、同施設の宿泊者による利用等で、市民が日常的に利用することは困難な状況がある。

（3）市のスポーツ施設の課題

〔スポーツ活動の場の確保〕

市内には、市のスポーツ施設をはじめ、大学、民間のスポーツ施設も多くある。

今後のスポーツ人口の増加に対応するため、「市スポーツ施設の一元管理」、「現行3体育館の開館日の拡大」や「小・中学校の学校施設の開放の拡大」を行うなど市民に利用しやすい施設を提供していくとともに、民間等のスポーツ施設を有効に活用するための方策が必要となる。

〔中核拠点となる施設の再構築と整備〕

市民ニーズやスポーツ観光にも対応する新総合体育館建設を含めた施設整備を、アセットマネジメントの視点に留意しながら、中核拠点となる施設の再構築と整備を行っていく必要がある。

※ アセットマネジメント

公共施設を資産としてとらえ、その損傷・劣化等を将来にわたり把握することにより、最も費用対効果の高い維持管理を行うための方法

2 市のスポーツ観光の現状と課題

（1）市のスポーツ観光の取り組み状況

市主催等の大会では、むなかたキッズセブンラグビー大会（3・4年生対象）、ビーチラグビー大会（子どもから社会人まで対象）、マリンフェスタ（小・中学生対象）、OPヨット大会（小学生対象）等が開催され、県外も含め市内外から多くの人に参加している。毎年10月には、実業団対抗女子駅伝西日本大会が開催され、市民にスポーツの観戦機会を提供している。

また、本市の民間スポーツ施設のグローバルアリーナでは、サッカー、ラグビー等の競技を中心に各種スポーツ大会の誘致や開催、スポーツ合宿の誘致といったスポーツ観光の取り組みが行われ

ている。

(2) 市のスポーツ観光の課題

本市の民間スポーツ施設のグローバルアリーナでは、国際大会をはじめとする様々なスポーツ大会の誘致や開催、スポーツ合宿の誘致が行われているが、特定の民間スポーツ施設の取り組みの範囲を出ていない。本市はスポーツ施設や多数のホテル、旅館等の宿泊施設を有していることから、全市的にスポーツ観光を推進する体制を整備し、宿泊客を増加させる取り組みを行うことで地域経済活動の活性化を図るとともに、市の新たなイメージアップにつなげる必要がある。

【施設面の課題】

- ◇ 国、九州レベルのスポーツ大会、トップスポーツの試合等を開催できる屋内施設（総合体育館）がない。
- ◇ グローバルアリーナは、ハンドボール、バドミントン、新体操、柔道等の屋内スポーツ大会の誘致・開催を行っているが、体育館（34m×47m 1,598 m²）と武道場（柔剣道（畳可動式） 試合会場 2面）は、「施設の稼働が高い」、「施設の規模が限られている」といったようなことから、大会規模や開催回数には限界がある。
- ◇ 宗像ユリックスのイベントホールでのスポーツ大会開催は、「アリーナ面積が狭い、天井が低い、観客席が固定で800席しかない、宗像ユリックスの文化事業の関係で必要な時に使用することができない」といった限界がある。